

積極果敢な投資でプラスチックにかかわる様々な分野に進出

恒徳化成工業株式会社 三重県名張市

恒徳化成工業株式会社は、現在の所在地である三重県名張市への移転を契機に、広大な敷地を生かして工場や倉庫、機械設備などを順次拡張、生活に密着したプラスチック製品を送り出し、業容拡大を遂げてきた。同社は大小様々な容量の成形機を保有しているが、なかでも1,300トンの大型成形機の導入によって取扱製品の領域が格段に広がり、同社の高い競争力が生み出されている。

同社の主力製品は、住宅床下のメンテナンスのために設けられる床下点検口で、新築住宅やリフォームなどで着実に需要を伸ばしている。また、浄化槽などの水処理装置や自動車部品、オフィス用品などの製造にも進出、取扱分野の多様化にも積極的に取り組んでいる。

今後も多様化する社会のニーズに応えた製品を送り出し、雇用の創出を通じて地元への貢献を続けていく。

会社概要



会社名：恒徳化成工業株式会社
所在地：三重県名張市滝之原字坂之脇 3549-1
電話：0595-68-5036
FAX：0595-68-2414
設立：2000（平成12）年2月
代表者：代表取締役社長 森山 勝弘
資本金：1,000万円
従業員：83名
事業内容：各種合成樹脂成形加工・金型製作全般
URL：<https://www.koutoku-kasei.co.jp/>

恒 恒徳化成工業株式会社



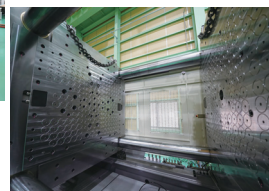
同社のロゴタイプ（上）本社工場・倉庫の全景（下）

設計から製造までワンストップで対応

恒徳化成工業株式会社は1985年5月に創業し、2000年2月に法人成りした。創業の地は大阪府八尾市で、手狭な貸工場からスタート。その後、現在拠点とする三重県名張市から工場誘致の話が舞い込み、1991年11月に移転した。同市は交通アクセスが良く、同社のホームページを見て、三重、滋賀、岐阜などの近隣県から取扱製品に関する問合せが相次いで寄せられている。

同社は、プラスチック製品の成形から金型の設計・加工、製品の保管・納品、品質検査を含めて一括して請け負っている。主に、OEMの完成品を全国に出荷しているが、付加価値の高い大小様々な製品を取扱っており、他社との競合は起きにくい環境にある。現在保有する計21台の射出成形機が同社の競争力向上に大きく貢献しているが、2020年に国内でも数少ない容量1,300トンの大型成形機を導入し、2023年の秋には1,800トンの大型成形機の導入が控えており、取扱製品の幅は格段に広がる。

同社の森山社長は「創業時から会社としてヒトもカネもない状況からの出発であったので、苦勞を苦勞と思わなかった。社員からは多少派手に見えたかもしれないが、会社経営は慎重に行ってきた。人材にも恵まれて今は会社も大きくなり、本当に夢のようだ」と振り返る。



容量1,300トンの大型射出成形機 FVX1300III-1100L（左）
同成形機の内部（右）

積極果敢な設備投資で業容を拡大

これまで主力製品としてきたのは、家屋の床を支える短い柱である床束。1996年の秋頃、倒産した会社から金型を譲り受け、床束の製造を本格的に始めた。床束を使用した住宅が阪神・淡路大震災でも損傷を免れたことが大きな話題となり生産量が一気に増加、月間約1,500個から約24万個にまで急成長を遂げた。現在の主力製品は、住宅床下のメンテナンスのために設けられる床下点検口で、取扱種類は約150種類、新築住宅やリフォームなどで着実に需要を伸ばし、月間生産量は約15,000～16,000個にまで成長した。

工場や倉庫、機械などの設備は順調に拡大してきたが、用地取得から倉庫、工場の建設、機械設備の導入に至るまで、概ね受注に先行して大胆に投資を行ってきた。2020年に住宅関連以外の新しい分野への進出を見据えて第2工場を増築、別の棟にあった複数の製造ラインの一体化を図った。2022年4月には自動車用フェンダーモールの製造を開始、新たな収益の柱として大きく育てようとしている。



トラックの横付けが可能な倉庫の出入口（左）
製品に使われる原材料が所狭しと並ぶ（右）

環境に配慮した生産体制を構築

部材や機械、製品などの置き場には広大なスペースが必要となるが、同社はすべての工場・倉庫など物流の拠点を1か所に集約し、量産体制を整えている。高品質の製品を作るには金型の温度がカギを握るため、金型温度調節機で金型内の温度管理を徹底している。プラスチック成形技能士1級の資格保有者を2名擁するが、成形機を操作する人間によってプラスチックを流すスピードにも微妙な変化が生じ、製品の仕上がり具合にも差が出るようだ。従来の油圧式成形機は電力を大量に消

費していたが、電動式成形機に変えて電力消費量は約3分の1に削減された。今後は太陽光発電設備の導入も検討している。

また、環境に配慮したプラスチック原料の使用を増やし、海洋プラスチックごみ対策にも取り組んでいる。2005年6月には、ISO9001:2000品質マネジメントシステム規格の認証を取得し、社会的信頼を得て、顧客満足の向上につなげている。



組立工場の内部（左）完成した製品を台車に格納（右）

業績発展で雇用を生み出し地元に貢献

森山社長は若手社員にも挑戦する機会をどんどん与え、仕事を任せるというスタンスだ。社員とは仕事でもアフターファイブも積極的にコミュニケーションを取っていることもあり、「社長の気さくな人柄のおかげでとても働きやすい」との声が数多くあがる。各部署の責任者は定期的に会議の場で情報交換を行っているが、若手の社員同士が自発的に集まり、活発に意見を交わして生み出されたアイデアが、業務の効率化や省力化などにつながったケースも多い。社員の平均年齢は40代、ベトナム人の技能実習生も約10名在籍している。将来を担う地元の若い世代を応援しようと、2021年9月に私募債を発行し、近畿大学工業高等専門学校にウッドベンチを寄贈した。人材の育成に地道に取り組むことが自社の業績向上につながり、雇用の創出が地元への貢献につながると固く信じている。「社員やお客様など、今まで本当に人との出会いに恵まれてきた。社員から“結婚した”“家を買った”という話を聞くと、彼らの成長を感じてとても誇らしい。これからも、業績が良くなった分は社員の待遇向上に反映させていきたい」と森山社長は熱く語る。

（大橋 徹、佐々木東吾）